

学園だより

Vol.88

2010.10
Nara Women's
University



記念館秋景(奈良女子大学メールマガジンより)

男女共同参画推進のための 取り組みと成果	富崎松代	1
教養広場 Liberal arts Forum		2
衣について	吉田孝夫	
カビと文化財	鈴木孝仁	
一枚の絵画との出会い	山崎明子	
寄稿 私のチャレンジ		5
	中川綾香・増山美優・大森佳	
卒業生からの寄稿		8
外の世界で学ぶ事	沼野なぎさ	
学校現場で働いてみて	玉城有紀子	
佐保会だより		10
こんな本を出しました		11
	横山茂雄・内田忠賢 上江洌達也・鈴木則子	
新任役員・新任部局長紹介		13
新任教員紹介		13
学生生活支援		14
授業料免除についてのお知らせ		
平成22年度就職活動支援行事		
	カレンダー(後期分)	
広部奨学金授与式について		
学生相談室から		

男女共同参画推進のための 取り組みと成果

富崎 松代

男女共同参画推進室長
理学部 教授 数学科 現象解析学講座



MATSUYO
TOMISAKI

奈良女子大学は、女性の高等教育機

関として、数多くの女性人材を育成し
社会に輩出してきました。また、優れ
た女性研究者を採用しており、平成二
十二年五月一日現在、教員総数二〇三
名中、女性教員数は六〇名（二九・六％）
です。意思決定部門への女性の参画も
従前より進められており、昭和四十六
年に、稲葉文枝氏が日本で初めての女
性の国立大学理学部長として、平成九
年には、丹羽雅子氏が初めての女性の
国立大学学長として選ばれています。
本学の基本理念の第一は「男女共同参
画社会をリードする人材の育成―女性
の能力発現をはかり情報発信する大学
へ―」であり、この基本理念や、国が
定める基本計画等に基づき、教育・研究・
運営等のあらゆる場面で、男女共同参
画に関する様々な取り組みが実施され
てきました。

平成十七年十二月、「男女共同参画基
本計画（第二次）」が閣議決定され、文
部科学省では「優れた女性研究者がそ
の能力を最大限発揮できるようにする
ため、研究と出産・育児等を両立し、
環境整備や意識改革など研究活動を継
続できる仕組みを構築するモデルとな
る優れた取組を支援する」として、平
成十八年度より「科学技術振興調整費「女
性研究者支援モデル育成」事業」が開始

されました。

同じ頃、本学のそれまでの男女共同
参画への取り組みを総括・評価し、更
に一層の推進へ向けて努力することを
明確にする為に、また、地方自治体等
における活発な動きに呼応・連携して
活動していく為に、平成十七年十一月
には、男女共同参画推進室が設置され
ました。推進室では、本学の女性研究
者のニーズに基づいた支援体制の構築
を計画・立案し、上記の「女性研究者
支援モデル育成」事業に応募し提案課
題「生涯にわたる女性研究者共助シス
テムの構築」が採択されました。

採択期間の三年間に、女性研究者に
対する支援環境の整備を進めました。
本学独自の子育て支援システムを構築し、
本学では初めての子ども一時預かり施
設「ならっこルーム」を設置しました。
出産・育児・介護に携わる女性教員の
教育研究活動を支援するために教育研
究支援員制度を確立し、学生・院生・
卒業生・修了生等のキャリア形成支援
活動・次世代女性研究者育成支援活動
を行い、若年層を対象にした科学講座
等の開設、男女共同参画推進のための
意識啓発活動等、幅広い活動を展開し
ました。採択期間終了後も、これらの
活動は大学の事業として継続実施され
ています。

上記の取り組みの成果は、意思決定
過程への女性の登用促進、女性教員の
採用促進に関するアクションプランの
制定等のシステム改革、意識改革につ
ながり、このような改革を基盤として、
本学は、平成二十二年科学技術振興
調整費「女性研究者養成システム改革
加速」に応募し、提案課題「伝統と改
革が創る次世代女性研究者養成拠点」
が採択されました。採択期間は、平成
二十二年度からの五年間で、女性人材
育成機関としての伝統と実績を活かし
た取り組みを更に充実し、理工系分野
の女性教員数の増加を目指します。

本学の活動の基本にあるものは、現
場のニーズに基づき、支援する側とさ
れる側の人のつながりの中で、双方が
それぞれの立場から寄与し成長してい
くような共助システムの構築です。こ
の共助の精神に基づいて、今後も、男
女共同参画のための活動を推進してい
きます。

衣についで

吉田 孝夫

文学部 准教授
言語文化学科
ヨーロッパ・アメリカ言語文化学コース

吉田先生

TAKAO
YOSHIDA

表題を見て、これは生活環境学部の教員かと思う人もいるかもしれない。

ぼくはよく、ドイツ名産、緑と赤の二着のアディダス・ジャージを着て、学内を徘徊している(当然ながら、一度に二着ではない)。ひと頃しばしば掲示された不審者情報では、その男は「黒っぽい服装」をしていたということだから、たぶん別の人のだろう。

ゼミでは今ちょうど、これもドイツ名産、ゲーテの『ファウスト』を読んでいる。主人公の男ファウストと悪魔メフィストの契約のくだりが特に有名だが、学生さんたちがまず面白がっていたのは、その悪魔がどうやら、神さまと仲良しであること。ギリシャ神話の神々をはじめ、いろんな魑魅魍魎(ちみもろうりょう)が(つまり神さまも、妖怪みたいなものだから)登場するこの作品は、特に第二部が難解とされている。だからぼくは、きっとみんな退屈をするはずで、この『ファウスト』をテキストに使うのも第一部だけにやるだろうと、そう高をくくっていた。結局、第二部もテキストに使うことになったのは、つい先日のこと。学生さんたちは、つねに、ぼくの浅はかな予感を裏切る。

作品のあちこちに登場する意味不明な化け物たちのなかで、比較的まともそうなのが地霊だ。地霊はこんなこと



『ファウスト』の地霊

を言う。「経緯(たてまじ)に織り交う糸、／燃える命、／こうしておれば(時)のざわめく機をつかす。／神の生きた衣を織る。」

これは中公文庫の手塚富雄訳。とても読みやすい名訳だと褒めちぎったのは、ぼくではなく学生さんの方である。それもまたこのゼミの大きな収穫だったが、ゲーテは、この「織る」という言葉がかなりお気に入りだったらしい。この世に生きて、糸のような(結ばれ)をつくること(人とであれ、事物とであれ)、それが彼の人生のイメージだった。そして大切なことだが、この美しくも醜い人生という織物を、奥底から弛まらず織りあげているのは、例えば地霊のような、目に見えぬ霊、謎めいた神の力である。

こんなことを言うから、吉田はオカルト信奉者と噂がたつ。それはともかく、「滅びに向かっている古い人を脱ぎ捨て、心の底から新たにされて、神にかたど

って造られた新しい人を身に着け」ることを勧めたのは聖書(エフェソ4、23-24、新共同訳)だった。罪の衣を脱ぎ捨て、聖なる霊の真新しい衣装を身にまとう。たしかに人間は、(神の似姿として造られたはずだし、そのことは地霊との対話で、ファウスト自らも自信満々に語っている。ただしその後の彼の運命は、どこか物哀しいものになるのだが。

昨今のケツ出しにかぎらず、人間はいろんな衣を身にまとう。ぼくが中高生の頃は、コワイお兄さんがコワイ格好をして、しかし世間はわかってくれない、中身はいい人間なのに、というストーリーが流行った。顔も衣装である。外見でびびらせといて、中身まで理解しろなんて。衣装と中身、表と裏とは、お互いがお互いをつくり合う、スリリングな関係にあるもの。目に見えぬ、その人の現われの陰には、なにが隠されているのか。その人の衣装を織っているのは、だれなのか。衣はぼくに、その種のことで興味を抱かせる。

カビと文化財

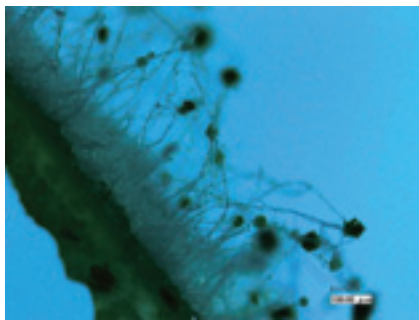
鈴木 孝仁

理学部 教授
生物科学科 分子・細胞生物学講座

科学技術が大きく発展した今日でも、未開拓に近い研究領域が残っていたと痛感させられたのが、カビの研究である。旧石器時代に描かれたとされるフラスコのラスコー洞窟の壁画や、国宝である高松塚古墳とキトラ古墳の壁画が同じような状況でカビによって劣化・損傷を受けた。また文化財を収蔵する場所においても、紙や皮革、あるいは木材でできた文化財を損傷するカビの生育が大きな問題となっている。ところが、カビに関する知識や制御技術が極めて未熟な状態であることが浮き彫りになった。日本学術振興会の主催する文化財保全技術先導的研究開発委員会（志水隆一委員長）が平成十九年四月に設置され、この委員会の三年間の活動を通して工学から考古学に至る様々な専門分野の人々と共同で委員会活動を進めることとなった。本学からも私の研究室のほか、化学科の竹内准教授、生活環境学部の上野教授（当時）も加わっていた。

日本の水気に富んだ気候は、多くのカビ種にとって生育しやすい環境である。気密性の高い最近の日本の住宅では、乾燥した時期でさえも、温度差による結露が起こってカビが発生する。カビが一旦発生すると、その子孫である胞子を大量に生み出して空气中に飛散さ

せる。また、カビが増殖すると、それを餌とするダニや昆虫をも招き寄せ、文化財や、室内環境の汚染や損傷を拡大することになる。



文化財に使われる膠に生えた好乾燥性のカビのデジタル顕微鏡像

私と共同研究者は、カビの放出する「におい物質」に注目した。カビの被害を最小限にするには、発生の初期にその存在を知ることが重要である。この発生時期には、カビがつくる「かたまり」、すなわち集落はとても小さいため肉眼ではとらえることはできない。しかし、カビの放出する「におい物質」を高感度に検出できる器械があれば、カビの存在を早期に検知できる。そこで、ガスクロマトグラフ・質量分析計を使って、カビの「におい物質」を分析してみた。するとカビの種類が異なれば、「におい物質」の種類も変わることが判明した。

さらに驚いたことには、カビもシックハウス症候群を引き起こす有機物質や、「森のにおい」物質、さらには昆虫やダニを引き寄せる物質（フェロモン様物質という）を出していることが明らかとなった。ダニや昆虫がカビを餌にする行動には、このカビの出すフェロモン様物質が関与していると推定できる。またカビは他種のカビや細菌に対して、「におい物質」を含む抗菌物質を分泌することで武装しているだけでなく、逆に共生しあってバイオフィームとよばれる砦をつくりあげ、殺菌剤や他の微生物からの攻撃に抵抗し、集団として生存を継続できる安定な環境を維持している場合もあることが分かってきた。

こうした発見から、文化財の保全にとっては、カビを強力な薬で一網打尽に一掃しようとする従来のカビ退治の方法（古墳壁画保存で失敗した方法）よりも、カビの生態をうまく利用して、安定した生態系を維持させながら文化財を保護するという新たな視点に立った方法の開発も必要なのではないかと考えるようになった。さらにカビの早期発見に役立つ「におい物質」検出のための先端計測機器を開発する研究も継続中である。近い将来に、カビ対策では日本が世界一の科学技術国になるべく、研究と人材育成に尽力している。

一枚の絵画との出会い

山崎 明子

生活環境学部 助教
生活文化学科



AKIKO
YAMASAKI

幼い頃、祖母の家に遊びに行くとき壁に掛けられた一枚の油彩画を見ていた。

画面の中央に広がる川面がキラキラと輝き、川岸には森があり、右岸には白と黒の二頭の牛がいる。光を湛える水の行く先には薄い朝焼けの空。低い山並みも見える。手前には白い小さな花をつけた草が生き生きと描かれている。この美しい風景画は、どこか日常の日本の風景とは異なるものに見え、油彩画というメディアが持つ質感と輝くような画面に憧れたものである。



中学生になり油彩画を習い始め、改めてこの絵を見た時、画面の右下にサインを見つけた。「清原玉女画」と右から左に書かれたいかにも拙い漢字のサインから、このヨーロッパの雰囲気な満ちた絵画が日本人の画家によるものだを知り、祖母にこの画家について訊ねた。そこで初めてこの画家が最初期の日本人女性洋画家として知られる「ラグーザ・玉」であることを知った。

今こそラグーザ・玉の名前は広く知られており、加地悦子著『ラグーザ・玉―女流洋画家第一号の生涯』（日本放送出版協会、一九八四年）、木村毅著『ラグーザお玉自叙伝』（恒文社、一九八〇年）などの伝記も手軽に読むことができる。また作品の収集・研究も進められ、しばしば展覧会で玉の作品を見ることができるようになってきたが、子どもだった当時の私には何度も見慣れたその作品が女性の手によるものだったことが衝撃だった。

ラグーザ・玉は一八六一年、江戸増上寺の差配の娘として生まれた。一八七六年に工部美術学校の彫刻教師として来日していたお雇い外国人であるヴィンツェンツォ・ラグーザと出会いモデルを務めた。この胸像は今の日本の近代彫刻史のページを飾る作品である。一八八二年、ラグーザと共に渡伊、イタリアのパレルモでその生涯の多くの時間を過ごした。パレルモではラグーザと美術工芸学校を設立し、油彩画を教えていたとされる。現在も残る玉の静物の写生を見ると、そのデッサンの力量に圧倒されるし、油彩画の技術も高かったことが偲ばれる。

一九三三年、玉は五十二年間過ごしたイタリアを離れ、日本に帰国した。その頃にはすでにほとんど日本語を話

せなくなっていたとされる。その時期に東京と神戸で個展を開き、母国語を失った「女流画家」が日本にもたらした多くのロマンティックな絵画は、モダニズム文化の中で受容されていった。油彩画を習う少女だった祖母は、この時に神戸の個展で冒頭の一枚の絵画を手に入れたという。

私は大学で美術史を学んだ時、歴史に登場する画家たちが男性ばかりであることに違和感があったのは、幼い頃の玉の作品との出会いが一つのきっかけだと思う。自分が生まれる百年前の日本に油彩画を描く女性がいたということ、その作品が本当に美しかったという記憶は、たとえ「美術史」のテキストに女性の名前がなくとも女性の創造の歴史と力を信頼する確かな基盤になっている。この一枚の作品との出会いが、アートとジェンダーの問題を考えるという今の自分の仕事を支えているのだと感じるのだ。

私のバレーボール

中川 綾香

文学部 人文社会学科
文化メディア学コース 三回生

私が奈良女子大学に入学して早三年、高校までやってきたバレーボールを大学でも続けようと思い、バレーボール部に入部して三年が経ちました。大学でのバレーボールはそれまでのように監督の先生から一から十まで教えてもらうものではなく、自分たちで考えていくこともプラスされたとても楽しいものです。また、昨年の秋からキャプテンという非常に責任のある役職に就きました。

ですが、自分たちの代になり、助けてもらう立場から後輩を助けて引っぱっていく立場になると、考えることがとても難しいものだという事を思い知りました。春のリーグ戦に向けて練習をしていくなかで、コーチの方や同級生と意見がぶつかり、そのたびに話しあいをしたり、言い合いになったこともあり、キャプテンを続けていく自信がなくなっただけではありません。でも、後輩たちが自主練をしたり、分からないところの質問をしますなど今までの以上の頑張りを見せてきて、彼女たちに負けていけないと思う、自分なりにチームをまとめようという気持ちが出てきました。そうして迎えた春のリーグ戦は、チーム成績が七戦中二勝五敗でギリギリ残留という形となり、悔しさが残る結果となりました。



私には高校のころから言われ続けていることがあります。その言葉は「不器用」です。物事を要領よくこなす、臨機応変に対応する、人前で気のきいた話をする、などのことが全然出来ません。また、すぐに慌ててしまい、状況を悪くすることもあります。それはバレーボールにも大きな影響を与えていて、すぐに修正すれば良くなったであろうことが修正できずに悪いままであったり、周りの状況を見て部員に指示を出すことが出来ずに部員を困らせてしまったりと、自分だけでなく皆にも迷惑をかけています。

ですが、試合や行事が終わるたびに部員や先輩方、卒業生の方から、「お疲れさま」、「頑張ったね」などの言葉をかけてもらったたびにやってきて良かった、とも思います。

これから八月の近畿国立大学体育大会と九月から始まる秋のリーグ戦の二つの大きな大会に向けての練習が始まります。そして、秋のリーグ戦が終わるとキャプテンの任期も終わります。この二つの大会で楽しいプレー、納得のいくプレーをし、また、いい成績を残して終わり、支えてくれた皆や先輩方、監督、卒業生の方々への恩を返したいです。そのためにも不器用な自分ともうまく付き合い、リーグ戦が終わってから、「やって良かった」と思えるようになりたいです。

Challenge

AYAKA
NAKAGAWA

物理学と世界

MITYU
MASUYAMA

増山 美優

理学部 物理科学科
一回生

長い受験生活を終え、この春から大学生となりました。これからどんどん大好きな物理の世界にもっと入っていきけるのかと思うと、とてもわくわくします。

物理ということなぜか毛嫌いな人もいますが、それはまだまだ物理学のことを知らないからではないでしょうか。別に、受験生を苦しめるために物理学があるわけではありません(笑)。

私にとっての物理学の最大の魅力は、知れば知るほど自分の見える世界が広がっていくということにあります。

少し難しいことを言いますと、私たち人間は知らないものは見ることができないようにできています。人間がモノを見る時にはそのモノの名前やその様子などを表すことばによって、それとその他の周りのモノとを切り離して区別したそのものの輪郭を見えています。ですから、そのモノを表すことばを一切知らなければ当然見ることはできないでしょう。

しかし、逆に言うと、知れば見ることができなのです。そして見ることができればその分、世界が広がるのです。

これが、地球史上最弱でありながらも最強である人類がここまで進化し発達した所以だと思います。

物理学によってわたしたちが見えるようになった世界はたくさんあります。

例えば、ニュートンが発見した運動の第二法則である運動方程式というものがあります。これは、力が働いている物体は加速度を生じ、その加速度は働いている力に比例し、その物体の質量に反比例するという法則です。なんとこの法則の発見によって、ある地点にある物体がこれから向かう先、つまり未来を予測することができるようになったのです！

最近では、社会情勢の影響もあってか、この世界は暗くつまらないものだと思っている人が多いような気がします。

確かに、辛い鬱のような部分も多くありますが、それと同じくらいたくさん人の輝きをもこの世界は秘めているのです。

物理学と出会い、わたしはこの世界の輝いている部分ともたくさん出会いました。そのおかげでわたしは、未来は希望と夢で満ち溢れていると信じて

ことができるようになりました。だからこそ、この胸が躍るような神秘的な世界をもっと多くの人にも知ってほしいと考えています。

これからは、たくさん勉強し多くのことを学び、そして研究をして自分自身ももっと見える世界を広げていき、かつ他の多くの人々にも夢や希望を与えられるよう、その世界を多くの人々にも伝えていきたいと思っています。



異国での体験

大森 佳

生活環境学部 生活健康・環境増学科
環境増専攻 三回生

二回生の秋、今年もその掲示物を見つけた。「ニュージールランド語学研修参加者募集」。一回生の秋にも同じ募集案内を見ていた。私は幼い頃から外国での暮らしに憧れていたもので、この四週間のホームステイプログラムはとても魅力的だった。しかしこの時はまだ条件であるTOEICを受けていなかったため、断念せざるを得なかった。そして二回生の今、もう準備はできている。

今度こそと、私はこのプログラムに応募し、そうしてニュージールランドに飛んだ。

研修先の南島クライストチャーチは、街並みの美しさで知られており、「イギリス以外で最もイギリスらしい街」と呼ばれている。ホストファミリーはマザーと四歳の女の子で、初めて会った時はやはり緊張した。

ニュージールランドの印象はとにかく「広い」だった。敷地が十分にとれるため、ほとんどの家は一階建てである。車道の幅は日本の一・五倍ぐらいいあるように思える。通学バスは牧場の中を時速百キロで飛ばしていく。しかし、一番印象に残ったのが空だ。日本で見ると空とは違う濃い鮮やかな青が、今でも目に焼き付いている。

語学研修なので、平日は学校に通う。クラスメートはサウジアラビア、中国

など各国からきている人達で、皆活発に討論し、自分の言いたいことを臆せず主張する。私もクラスの明るい雰囲気の中、次第に自分の意見を言うことの楽しさが感じられるようになった。

週末には、ホストファミリーと一緒にラグビーの試合を見たり、ドライブやピクニックに行ったり、また、友達と小旅行にも出かけていた。

中でも、第二週の週末に有名な観光地のマウントクックへのツアーに参加したことは一大イベントだった。ワンボックスカーで四〜五時間かけて南島の中央部に向かう。途中、牧場や初めて見るミルキーブルー色の湖で休憩し、写真もたくさんとった。どの景色も息をのむほど美しかった。目的の山麓は草原というより荒野という感じだった。山中腹以上には氷河がまだ残っていて、それが崩れるような音を一度聞いた。普段見る風景とは全く違うものが目の前に広がっていて、何だか自分がこの地に立っていることが不思議でなかった。夜空には今まで見たことがないほど多くの星が広がっていた。天の



マウントクックにて

川もくっきりと見えていて、しばらく時を忘れてただ眺めていた。

マウントクックから帰ってきてから、私は風邪をひいて寝込んでしまった。山の標高の高さ、気候の変化、慣れない環境での緊張等、いろいろなこと重なったからだろうか。この時はさすがにホームシックになってしまったが、ホストマザーが食べ物に気を配ってくれたり、温かい湯たんぽを用意してくれたり、本当の母親のように世話をしてくれて、私は体調を回復することができた。

最終日、ホストファミリー、特に四歳のShobhanとの別れはただ涙、涙だった。この充実した一か月のプログラムを終え、私にはたくさん思い出ができた。自分の視野が広がったことは何よりの収穫だったと思う。この素晴らしい機会を与えてくださった方々に心から感謝し、次に続く人たちにも、ぜひ参加していただきたいと思えます。



ミューラー氷河湖



外の世界で学ぶ事

沼野 なぎさ

大学院人間文化研究科 情報科学専攻
平成二十年修了
NECシステムテクノロジ



NAGISA
NUMANO

自分の所属していた研究室は、いくつかの企業と共同研究をしていました。自分自身も共同研究をしていなかったのですが、社会人になってから、他の大学と共同研究を行う機会に恵まれました。

やはり、予算を取るため企業と積極的にタッグを組む研究室というのは、独特の雰囲気があるように思います。学術研究というよりは企業の研究に近いものです。

企業の研究では、基本的に稼げる見込みのあるものを取り上げます。もちろん、基礎研究を扱っているところではそれに限りませんが、数はとても少なくなっています。

もし、現在、大学院などに在学し企業での研究職を志している方は、好きな研究をできない可能性の方が高いことを念頭に入れておかれると良いと思います。大学で学んだ知識そのものを会社で使えることは稀ですが、解決に至る考え方や調べ方を身につけ、諦めない強さを得ることが大切だと思います。自分は幸いにも、趣味で身につけた技術や研究室で使った技術が使えました。何が役に立つかわからないものだと思います。直接役に立たないと思われる事柄でも役に立つ時があるので、色々と挑戦することは自分の幅

を広げることに繋がります。

学生の時は、社会人がとてもすごい存在に見えましたが、社会人になってから改めて学生を見ると、学生が頼もしく見えるものです。もちろん、細かな連絡のやり取りなどは学生が慣れたため、こちらから積極的にするなどの工夫も必要ですが、思う以上にしっかりと対応してくれます。

もし学生の方で共同研究の話が出ている方があれば、臆せず自信をもって挑んでいただきたいと思います。きっと、学生であるだけでは体験できない経験をもたらしてくれるでしょう。

また、他業種の方との共同研究というのも、とても良い刺激になります。

私は情報系の会社に入っていますので、IT化をテーマとして扱うことが多くなっています。つまり、今までIT化の手が伸びていなかった他業種の方とお話する機会があるということです。

他業種の方の話を聞いていると、今まで自分が知らなかったことが出てきます。社会に出て視野が広がったつもりでも、それすらまだ狭いものだと感じさせられました。

例えば、私は「図化」という言葉を知りませんでした。何を図にするんだろっか？ などと思っていました。こ

れは航空写真を地図に起こす作業のことを指すそうです。

あるいは、私はおいしいみかんの作り方を知りませんでした。てっきり、日が当たれば甘くなると思っていましたが、水の遣りかたひとつでみかんの甘さも酸っぱさも決まるそうです。日が当たればみかんは糖に染まりますが、甘さには影響しないそうです。

これらのことは、他業種の方の話を聞かなければ、知り得ませんでした。そして、今は共同研究を行うと、話し合いと移動で丸一日が過ぎてしまい、大変だと思ってもありますが、それ以上に自身の知識の幅を広げてくれるものだと思います。

新しいことに挑戦するのは、二の足を踏みがちですが、始めてしまえばなんとかなるものです。

これから少しずつ、新しい世界へ踏み出していけたらなと考えています。

学校現場で働いてみて

玉城 有紀子

生活環境学部 生活健康・衣環境学科 衣環境学専攻
平成二十一年卒業
沖縄県教員試験に挑戦中



YUKIKO
TAMAKI

大学を卒業し、地元沖縄に戻って一年とちよつとが経ちました。

私は就職活動がスタートする頃、企業を受けるか、教員採用試験を受けるか迷いがあり、遅ればせながら四回生に上がる頃に教員への道一本へ絞りました。採用試験の現役合格はならず、卒業後は県の教育委員会に登録して、臨時的任用教諭をしてきたのでその話をします。

卒業したての四月、工業高校の定時制（夜間）で二年生の担任をすることになりました。学級開きに家庭訪問、年度初めは事務手続きも多く、次から次へと仕事に追われながら、受け持つ家庭科の準備で夜遅くまで教材研究する日々でした。しかし、授業に筆記用具すら持ってこない生徒たち、職員で組まれているタバコの吸殻拾いを兼ねての巡回当番、…シヨックを受けることも多々ありました。喫煙や深夜徘徊など生徒指導面に課題のある生徒も多く、不登校、休学、と本当にいろいろな問題と直面しました。そんな中でもなんとかやってこれたのは、周りの先生方と連携して問題に向き合うことができたからで、私ひとりではとても乗り越えられなかったと思います。

そして、生徒と交流できるのはやはり楽しく、やりがいがありました。座

学は苦手でも、手先を動かすことは好きで、被服実習の刺し子の課題に「初めて家庭科おもしろいと思った」と言ってくれた生徒、働きながら学費を自分で納める生徒、一児のパパで家庭科の保育の時間に協力してくれた生徒。一人ひとりいろんな個性を持っていて、生徒からも多くのことを学びました。卒業までに退学してしまう生徒も多く、六年かかって卒業する生徒もいましたが、ほとんどがアルバイトなど働いた経験を持つこともあって、卒業まで頑張ってきた生徒たちは、明らかに成長した姿を見せてくれました。

次に赴任したのは特別支援学校の高等部でした。前任校を去る時に、「特別支援学校は教育の原点だよ」という言葉をもたらったのですが、本当にその通りだと思ふことが何度もありました。



特別支援学校にて

例えば給食時間も見本を示して、マネーを教える先生の姿を見て、生徒の前では常に教育者であると再認識させら

れました。四月の学級作りのときにも、早く生徒の実態を掴むように努め、一人ひとりにどんな課題があるかを検討し、朝の活動時間にはこれをさせてみてはどうだろうと、どのような支援ができるか具体的に考えました。

働く中で、進路選択の時に迷ったような、私に「できるか」ではなく、「やるかやらないか」だということを実感しました。自分の進みたい道があるなら、不安な気持ちに負けず、突き進んでみれば必ず得るものがあると思います。それぞれの学校で、生徒とも先生方とも多くの出会いがあり、教育に携わるというのは本当におもしろいことだと感じます。早く本務として働けるように頑張ります。

最後に、奈良女で過ごした日々は本当に楽しく、場所は遠く離れてしまっただ今でも、友達の近況を聞いては励まされます。奈良女生のみなさんも、これから受験を考えている人も、頑張ってください。



佐保会だより

在校生と卒業生のつどいを開催しました。

平成二十二年六月二十五日（金）に佐保会館二階ホールにおいて在校生と卒業生のつどいを奈良女子大学との共催として開催しました。

若き卒業生による 大学での学びのすすめ

——就活・実社会につながる
奈良女での積極的な学び——
と題しゲストスピーカーとして
中澤久美子さん

（平成十年 生活環境学部

人間環境学科住環境学専攻卒）

（株）INAX

岩花 薫さん

（平成十二年 理学部 情報科学科卒）

日本経済新聞社

のお二人の先輩をお招きしました。

授業の終わった後の遅い時間帯ではありませんでしたが、多くの在校生、教員、就職関係の事務部の方々の参加のもと活発な質問もあり本音のお話を聞くことが出来ました。

「お二人のお話の要約」

* 中澤久美子さん

大学で学んだ住環境学の知識を活かしたものの作りをやりたいたいと思ったが最初に配属になったのは人事総務部採用企画担当という部署だった。その後経

営企画部広報室で主に社内広報の仕事を担当、現在は人事総務部人事情報システムの仕事をしている。自分のやりたいと思ったことは活かせていないが、与えられた仕事の中で自分の出来ることを見出し、その時々で全力を尽くすことで多くのことが学べ、今はこの会社を選んでよかったと思っている。会社も最近は「ワークライフバランス」を考えるようになり、自分も時間的にもゆとりが出来、土・日には近くのポートのクラブでも楽しんでる。

後輩へのメッセージとして就職活動をするにあたって、人に個性があるように、会社もそれぞれの理念や文化がある。自分には何が大切か、何を大切に生きてきたか、自分の大切なものを考え直してみてほしい。学生時代にやっておいて欲しいこととして、自分にはこういうことができると言えるもの（たとえば資格）を作っておきたい。最後に学生生活を大いに楽しんでください!!

* 岩花 薫さん

入社して情報技術本部に配属され新聞を作るシステムの開発、ユーザー部門のシステムの整理を行ってきた。現在は次期システムの構築に向けたプロジェクトの立ち上げの仕事として社内



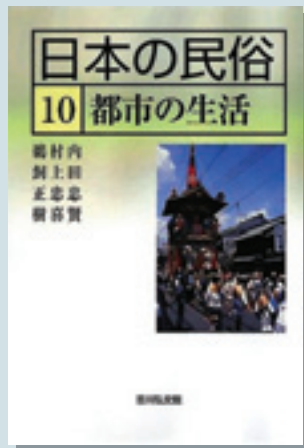
ユーザーとの打ち合わせや他社との交流など多忙な毎日をおくっている。学生の方へ習得しておくとい

い経験、考え方として
1、何でもいい「大学時代にはこれをやっていい」と言えることがあると自信につながる

2、何でも興味を持ち視野を広げ自分が好きなものを見つめる。そこから新たな世界が開拓できる
3、うまくいかないときはなぜうまくいかなかったかの原因を考える
社会人に必要な力は、体力、コミュニケーション能力、忍耐力、考える力と行動力

最後に奈良女子大学という恵まれた環境の下で、マイペースに過ごせる学生時代を大切に。

お二人の講演のあとティータイムをはさんで質問に答えていただきました。お二人とも学生時代は体育会系のクラブに所属されていて大学時代の友達の大切さを強調されています。
（文責 松尾 欣枝）



柳田國男が創始した「民俗学」と聞くと、カビ臭い年中行事や、時間が止まったような昔話を扱う分野だと思われがちだ。しかし、「民俗学」の一番の関心は、過去ではなく、同時代の庶民の暮らしにある。現代では、庶民の暮らしは激変している。この現代社会を「民俗学」が研究できないのだろうか？この問題意識の下、企画されたのが、新「日本の民俗」シリーズだ。私が任された巻は「都市の民俗」ではなく「都市の生活」。つまり、現代社会の変化・諸相を、民俗学と結びつけ描いてほしいと……。古臭い民俗学にこだわる必要はない。学生時代からの親友、民俗学者の村上忠喜（京都市文化財保護課技師）、社会学者の鵜飼正樹（京都文教大学准教授、本学非常勤講師）に声を掛けた。村上が古都京都における庶民生活の伝統と革新を、鵜飼が街で活動する見世物芸人の表裏を、地理学者の私が、変貌する都市社会と都市文化の諸相を描いてみた。民俗学のイメージを変える一冊になってほしい。

『日本の民俗10 都市の生活』
内田忠賢編、内田・村上忠喜・鵜飼正樹著、
吉川弘文館、2009年、3,000円+税)

*顔写真は、札幌「YOSAKOIソーラン祭り」調査時(2010年6月)。
普段は、このような姿ではありません。

内田 忠賢
大学院人間文化研究科 教授
社会生活環境学専攻 社会・地域学講座



TADAYOSHI
UCHIDA

「日本の民俗10 都市の生活」



本書はイギリスの女性作家マーガニータ・ラスキ(1915-1988)の代表作(1953)の翻訳です。ラスキは日本ではほとんど無名ですが、本国ではこのところ再評価の機運が高まっています。

『ヴィクトリア朝の寝椅子』は、いわゆる幻想小説の範疇に入る作品です。主人公の若い女性メラニーが、ある日の午後、ロンドンの自宅で骨董品の寝椅子に横になってまどろみ、眠りからさめてみると、その眼前にあるのは、見知らぬ部屋、見知らぬ人物——しかも、彼女は実は自分がミリーという名の女であり、日付こそ変わらないけれど、年号は何と1864年だと告げられるのです……。

この作品は時間と意識をめぐる非常に独創的な物語であり、同時に、女性の性意識も主要なテーマになっています。とはいえ、決して難解な小説ではなく、いったん読み始めると、予測のつかない展開の連続に、きっと最後まで頁を繰るのをやめられないでしょう。

『ヴィクトリア朝の寝椅子』マーガニータ・ラスキ著、横山茂雄訳、新人物往来社、2010年、2,000円+税)

横山 茂雄
大学院人間文化研究科 教授
比較文化学専攻 欧米地域文化情報学講座



SHIGEO
YOKOYAMA

「ヴィクトリア朝の寝椅子」

「新装版 カオス力学系の基礎」
 原題「A First Course in Chaotic Dynamical Systems: Theory and Experiment」
 by Robert L. Devaney

上江洌達也

大学院人間文化研究科 教授
 複合現象科学専攻 複合自然構造講座



TATSUYA UEZU



原本は、ロバート・デバニーによるカオス力学系の入門書であり、ボストン大学で行なわれた半期コースの講義が元になっている。前提となる知識は、教養課程の微積分程度である。原題の副題にあるExperimentはコンピュータによる実験であり、パソコンなどによるレポート問題が適切に配置され、読者の理解を深める助けになっている。この本の特徴は、専門的なコースを取らずに解析学のアイデアを理解でき、初学者でも無理なく学習できるよう教育的配慮がなされていること、典型的なモデルを徹底的に調べることにより、力学系の諸概念が自然に身につくようになっていて、カオスの定義を数学的に明確に行っていること等である。1997年に最初の翻訳が出版された後、2007年に新装版が出版されて、ミスプリントの訂正や、訳語の変更、参考書の追加などが行なわれた。理系文系の分野を問わず、カオス、フラクタルなどに興味のある方へお勧めしたい。

追記
 本書の訳者の一人であり、元奈良女子大学理学部助教授、早稲田大学理工学部教授の田崎秀一氏が、6月6日にお亡くなりになりました。謹んで哀悼の意を表します。

(原題「A First Course in Chaotic Dynamical Systems: Theory and Experiment」 by Robert L. Devaney)
 【新装版 カオス力学系の基礎】
 ロバート L. デバニー著、上江洌達也、重本和泰、久保博嗣、田崎秀一訳、ピアソン・エデュケーション、2007年、4,000円+税)

「湯治の文化誌 論集【温泉学Ⅱ】」

鈴木則子

生活環境学部
 生活文化学科
 准教授



NORIKO SUZUKI



昨今は「温泉博士」、「温泉ビューティー研究家」、「温泉ソムリエ」といった耳慣れない肩書きを持った人々の手になる温泉関連書籍が、書店に大量に並んでいます。しかしながら、学問的裏付けのある書はほとんどないというのが実態でしょう。その一因は、温泉が日本人にとってあまりにも身近な生活文化であるからかもしれません。この本を編集した日本温泉文化研究会は、そのような状況を打破し、欧米のような温泉学の確立を目指して結成されました。

本書の前半は人文科学・社会科学・自然科学の研究者による、日本湯治文化の研究報告、後半は、これから温泉学を学んでみようという人の為の入門篇「温泉学へのいざない」で構成されています。研究会への入会も視野に入れながら是非ご一読いただき、頭からどっぷりと温泉学体験をしてみてください。

(「湯治の文化誌 論集【温泉学Ⅱ】」
 日本温泉文化研究会編、2010年、岩田書院、8,400円+税)

NAOKO YAMAMOTO
山本 尚子

- ①大学院人間文化研究所 助教
- ②比較文化学専攻
- ③英語学・言語学
- ④滋賀県
- 滋賀県立石山高等学校
- 奈良女子大学文学部 言語文化学科
- 奈良女子大学大学院人間文化研究所言語文化学専攻
- 奈良女子大学大学院人間文化研究所比較文化学専攻



新生活

昨年10月、今まで学び舎だった奈良女子大学に、助教として赴任いたしました。これまでとの違いに戸惑いを感じることもありましたが、少しずつですが慣れてきたところです。

私が専門とする英語学・言語学は、「ことば」を研究対象とします。日々の生活の中で、「ことば」はなにげなく交わされていますが、そこには不思議なことが溢れています。

日々積み重ねを大切に、成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

NOZOMI TAKAKU
高徳 希

- ①大学院人間文化研究所 助教
- ②社会生活環境学専攻
- ③スポーツバイオメカニクス
- ④兵庫県
- 兵庫県立鳴尾高等学校
- 奈良女子大学文学部人間行動科学科
- 奈良女子大学大学院人間文化研究所人間行動科学専攻
- 奈良女子大学大学院人間文化研究所社会生活環境学専攻



母校での第一歩

学生時代を奈良女子大学で過ごした私ですが、その母校で研究や教育に携わることになり大変嬉しく思っています。専門は身体運動の仕組みを生理学・運動科学的観点から解明するスポーツバイオメカニクスという領域です。振り返ってみると、奈良女子大学でこの学問に出会ったことが大きな岐路だったように感じます。今後はこの大学で培った経験を学生の皆さんのために活かしていきたいよう、更なる成長を目指したいと思います。

BUNSHO KURE
久禮 文章

- ①理学部 助教
- ②化学科
- ③錯体化学
- ④大阪府
- 私立清風南海高等学校
- 大阪大学工学部応用自然科学科
- 大阪大学大学院工学研究科



奈良女子大学に赴任して

昨年の11月よりこの奈良女子大学にお世話になっております。九州での約1年半のポストドク生活を経て、生まれ育った関西に戻ってくることになりました。

私の研究の専門は錯体化学と有機金属化学です。棚瀬教授、中島准教授および14人の学生と一緒に充実した毎日を送っています。この神社や仏閣に囲まれた美しい町で研究・教育ができる幸せをかみしめながら一生懸命頑張りたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

YUICHIRO NISHIMURA
西村 雄一郎

- ①文学部 准教授
- ②人文社会学科
- ③社会経済地理学・時間地理学
- ④愛知県
- 福岡県立福岡高等学校
- 名古屋大学文学部
- 名古屋大学大学院文学研究科博士前期課程(史学地理学専攻)
- 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程(史学地理学専攻)



奈良時間

愛知工業大学地域防災研究センター・(株)イーアイシステムサービス(大学ベンチャー企業)から本学に赴任し、地域環境学コースに配属されました。

私はグローバル経済の下での日常生活の変化に関する研究を行っており、フィールドは日本の自動車産業地域から始まり今ではラオスに辿り着きました。

奈良のゆっくり流れる時間は自分に合っているようで、通勤で東大寺の大屋根が見える坂を下りながら毎日の風景の変化を楽しむようになりました。

新任役員紹介



馬場 祐次郎 理事(管理運営担当)
YUJIRO BABA 事務局長

伝統ある奈良女子大学の一員に加えていただき、大変光栄に思うとともに、その責任の重さを痛感しています。本学も、今年度から第2期中期目標・計画に基づく新たな歩みを始めましたが、一方で、わが国の経済状況は益々厳しさを増すなか、大学運営の基盤となる運営費交付金を始め、国立大学を巡る情勢は極めて厳しいものがあります。こういう先の見えない時代だからこそ、奈良女子大学の真価が問われているものと考えます。皆様のお役にたてるよう努力してまいりますので、ご指導・ご支援をよろしくお願いたします。

新任部局長紹介



三野 博司 文学部長
HIROSHI MINO
①文学部:教授
②言語文化学科 フランス文学

- ①所属学部等・職名
- ②所属学科・専攻分野

「のだめカンタービレ 最終楽章後編」にならって言えば、私の奈良女子大学生活の最終楽章後編は、文学部長という大役によって大きく揺すぶられることになりました。特に抱負も信念もありません。文学部という60余名のオーケストラが、美しい協和音を奏で、豊潤流麗で力強い響きを生み出せるよう、タクトを振ることができたらと思うばかりです。私が見るところ、近年この楽団には、自分が演奏するときにきちんと他人の音を聞く耳をもっている、若くて優秀な人たちが大勢育ってきています。頼もしいです。「和」こそ「力」です。

新任教員紹介

KEIKO GOTO
後藤 景子

- ①生活環境学部 教授
- ②生活健康・環境学科 環境学専攻
- ③被服加工・管理学 コロイド界面科学
- ④大阪府
- 大阪府立三国丘高校
- 奈良女子大学家政学部被服学科
- 奈良女子大学大学院家政学研究科被服学専攻
- 奈良女子大学大学院人間文化研究所生活環境学専攻



後進を育てる

京都教育大学から16年ぶりに奈良女子大学に戻ってまいりました。長い間、学校教員養成に携わっていた自分の特性を生かし、衣服・環境全般を視野に入れた教育や学生指導に力を入れたいと考えております。

健康・快適・安全な環境の創出を目指し、衣服素材表面の加工や浄化について、コロイド界面科学の立場から学生たちとともに追求していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

AKIKO YAMASAKI
山崎 明子

- ①生活環境学部 助教
- ②生活文化学科
- ③視覚文化論、ジェンダー史
- ④千葉県
- 千葉県立鎌ヶ谷高等学校
- 千葉大学教育学部
- 千葉大学大学院教育学研究科
- 千葉大学大学院社会文化科学研究科



奈良女を愉しむ

千葉大学からお茶の水女子大学の研究員を経て奈良女子大学に来ました。奈良女ののんびりとした雰囲気を楽しんで毎日過ごしています。専門は文化の制度史—視覚文化とジェンダー—で、特に近代の女子教育文化研究を続けてきた私にとっては、奈良女はとても魅力的な大学です。長い歴史が今なお息づく空間で、学生たちと共に多くを学び、豊かな時間を過ごしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

MICHIKO OHNO
太野 路子

- ①生活環境学部 助教
- ②食物栄養学科
- ③生化学
- ④東京都
- 東京都立八王子東高等学校
- 同志社女子大学生活科学部管理栄養士専攻
- 京都大学大学院農学研究科修士課程応用生命科学専攻
- 京都大学大学院農学研究科博士課程食品生物学専攻



古都奈良で夢をみる!?

この度学生時代を過ごした関西へ戻ってまいりました。古都奈良の風景はどうか京都に似て、懐かしさを感じております。

また、栄養学分野も学部を卒業して以来、戸惑うことも多く日々奮闘しております。

「夢見て行い、考えて祈る。」という言葉があります。私は研究者としても教育者としても歩み始めたばかりでまだまだ未熟ですが、自分自身夢を持ち、そして学生の夢をもサポート出来るよう、精一杯努力していく所存です。

SATOMI AKAGIRI
赤桐 里美

- ①生活環境学部 助教
- ②食物栄養学科
- ③生理学
- ④大阪府
- 私立大谷高校
- 京都府立大学生活環境学部食物学科
- 京都府立大学大学院生活科学研究科食生活科学専攻
- 京都府立医科大学大学院医学研究科統合医学専攻



大学教育について

学業・研究を通じて、大学という小さな社会で身につけるべきことはたくさんあります。学生が与えられた課題をこなすだけではなく、他人と調和をとりながら、自分で考え、自由に想像し、果敢に挑戦する…そういった練習を繰り返して、夢と希望を胸に社会に巣立っていけるような環境を作り、サポートするのが教員の役目だと考えています。学生一人一人の個性に合った未来を共に描けるよう、私自身も日々成長していきたいと思っています。

KAZUO NAGANO
長野 和雄

- ①大学院人間文化研究科 准教授
- ②社会生活環境学専攻
- ③建築・都市環境学、生気象学
- ④大阪府
- 京都府立大学生活科学部住居学科
- 京都府立大学大学院住環境科学専攻
- 名古屋工業大学大学院社会開発工学専攻



奈良だからできる仕事を

13年ぶりに関西に戻って改めて見る奈良は、景色の一つ一つが印象的で、どこか花札の絵柄のように映ります。近年は特に、すまいやくらしの背後にある気候風土に興味を持っているので、鹿に加え鶯や蝶、梅や桜や菖蒲などに四季折々の風土的個性を感じているのかも知れません。いずれ、学生たちと一緒に奈良の気候風土文化に自分たちなりに迫りたいと思っています。ちなみに、賭け事に興味があるわけではありません、念のため。

SACHIYO OHIRA
大平 幸代

- ①文学部 准教授
- ②言語文化学科
- ③中国文学
- ④兵庫県
- 奈良女子大学文学部
- 奈良女子大学大学院文学研究科
- 奈良女子大学大学院人間文化研究科



奈良で中国古典三昧!

関西学院大学から移ってきました。久々の奈良にはあちこちに「せんとかん」。大陸文化とのつながり深いこの古都で、中国古典を読む楽しさを再認識しています。

主な研究対象は、魏晋南北朝の詩賦や説話。美文がもてはやされた、貴族文化の全盛期ですが、一方で大酒飲みや怪奇マニア、下駄コレクターなど個性豊かな人たちがいて退屈しません。細心かつ妄想たくましく、古典のおもしろさをお伝えできれば幸いです。

よろしくお願いたします。

TAKASHI YASUDA
保田 卓

- ①文学部 准教授
- ②人間科学科
- ③教育社会学
- ④京都府
- ウィアートル学園洛星高等学校
- 京都大学教育学部
- 京都大学大学院教育学研究科



となりの古都へ

大学院博士後期課程中退後、京都・福岡・大阪勤務を経て、奈良女子大学にお世話になることになりました。生まれてから30年を京都で過ごしたので、奈良にはときどき遊びに来ておりましたが、まさか近鉄奈良駅から通勤することになるとは…。

専門は教育社会学で、教育システム理論という道具を使って社会における教育の在り方を研究しております。

どうぞよろしくお願いたします。

MAYUMI SETO
瀬戸 繭美

- ①理学部 助教
- ②情報科学科
- ③数理生物学・生物地球化学
- ④福島県
- 福島県立福島女子高等学校 (現 福島県立橋高等学校)
- 東京農工大学農学部環境資源科学科
- 東京農工大学大学院農学教育部物質環境科学専攻
- 東京農工大学連合農学研究科資源・環境学専攻
- 九州大学理学部地球惑星科学科専攻



奈良の桜の薫りに誘われ

遷都1300年の記念すべき年に歴史ある奈良女子大学に赴任することとなり、大変嬉しく思っております。

専門は数理生物学で、生物と物理化学環境の相互作用のモデル研究をしています。学部生の頃は自ら高層湿原に採水に向き測定を繰り返しておりましたが、修士からは紙と鉛筆と計算機を友に室内で地球・生態系の成り立ちに思いを馳せる日々です。

趣味は合唱(ソプラノ)です。これからどうぞよろしくお願いたします。

HIROE KIKUZAKI
菊崎 泰枝

- ①生活環境学部 教授
- ②食物栄養学科
- ③食品化学・分子調理学・給食経営管理学
- ④大阪府
- 大阪府立天王寺高等学校
- 大阪市立大学生活科学部食物学科
- 大阪市立大学大学院生活科学研究科



大阪から奈良へ

半世紀を大阪で過ごしてきました。遷都1300年の記念すべき年に奈良女子大学に赴任できたことをたいへんうれしく思います。

食品に含まれる成分の化学構造と機能、調理操作が食品成分に及ぼす影響について分子レベルで追究しています。教育・研究指導を通して、食品・栄養・健康に関する知識はもとより、問題発見および解決能力を兼ね備えた管理栄養士の育成に努めたいと考えております。

どうぞよろしくお願いたします。

学生生活支援

授業料免除についてのお知らせ

平成23年度前期分授業料免除及び徴収猶予に関する申請書類の配布及び申請受付を下記のとおり予定しています。

詳細については、2月上旬に本学ホームページ及び掲示板にてお知らせすることとしています。

申請書類配布：2月上旬～4月上旬
申請受付：4月上旬～4月中旬

平成22年度就職活動支援行事カレンダー(後期分)

就職を希望する学生に対して、各種の就職活動支援行事を企画・実施しています。
就職マニュアル本からは得られない知識や情報等の収集の場として、積極的に参加・活用してください。
行事の詳細な内容や、実施日時・場所に変更があった場合などは、順次掲示で通知しますので、図書館横の学生生活課の掲示板をいつも見るように心がけてください。

【就職支援対策講座】

*企業・教員・公務員等に拘わらず、就職希望者全員が受講対象です。

月・日	曜日	就職活動支援行事(対策講座名)	時間	教室	対象
10/8	金	ナビ各社の説明	16:30~18:10	G201	3年生・M1
10/15	金	正しい就活の情報収集	16:30~18:10	G201	3年生・M1
10/19	火	筆記試験対策模擬テスト【有料】	16:30~18:10	G101	3年生・M1
10/22	金	筆記試験対策講座	16:30~18:10	G201	学年不問
10/26	火	就活に必須のマナー	16:30~18:40	G101	3年生・M1
10/29	金	応募書類の正しい書き方	16:30~18:10	G201	学年不問
11/9	火	エントリーシート対策Ⅰ	16:30~18:10	G101	3年生・M1
11/13	土	グループディスカッション対策	未定	G202 G203	3年生・M1 (興内大学合同)
11/16	火	エントリーシート対策Ⅱ	16:30~18:10	G101	3年生・M1
11/17	水	エントリーシート対策模擬テスト【有料】	16:30~18:10	G201	3年生・M1
11/19	金				
11/26	金	面接(全般)対策	16:30~19:10	G201	3年生・M1
12/4	土	模擬グループ面接	①10:00~12:00 ②14:00~16:00	G202 G203	3年生・M1
12/7	火	就職内定者による体験報告会	16:30~18:10	G101	3年生・M1
12/14	火	就活の総まとめ	16:30~18:10	G101	3年生・M1
23. 1/21	金	学内合同企業説明会事前研修会	16:30~18:10	N101	3年生・M1
1/29	土	学内合同企業説明会	13:00~17:00	N101,記念館 大学会館	3年生・M1
2/中旬(土)予定		「関東地区就職希望者のための就職懇談会」 (同窓会 佐保会東京支部との共催)	13:00~16:00	佐保会 東京会館	2年生以上

【教員・公務員対策講座】

*教員・公務員志望者は、併せて就職支援対策講座の受講が必要です。

月・日	曜日	就職活動支援行事(対策講座名)	時間	教室	対象
12/16	木	教員・公務員採用試験合格者体験報告会	16:30~18:10	E107	2年生以上
2/実施予定 (4日間)		教員・公務員採用試験対策論文講座【有料】	9:00~12:10	E109	2年生以上

セミナーやガイダンスに授業等で参加できなかった人は、
ビデオ撮影したものをキャリアサポートルームで視聴することができます。
後日、時間があるときに、学生生活課就職係に申し出てください。

広部奨学金授与式について

平成22年度広部奨学金授与式が7月12日(月)にコラボレーションセンター 応接・会議室にて行われました。



広部奨学金は、本学卒業生の故広部う殿(福井県出身 奈良女子高等師範学校本科数物化学部1期生 大正2年3月卒業)のご遺志により寄附された資金をもって設けられた奨学金制度です。各学部・研究科長より推薦された人物・学業ともに優秀な本学学生に授与するものであり、今年度は次の8人に証書及び奨学金が野口学長から贈られました。

文学部	国際社会文化学科	4回生	小林 理恵
文学部	人間行動科学科	4回生	中谷 美里
理学部	物理科学科	4回生	徂徠 加奈
理学部	化学科	3回生	是枝 李香
生活環境学部	食物栄養学科	4回生	田 智子
生活環境学部	住環境学科	4回生	太田 礼美
人間文化研究科博士前期課程	人間行動科学専攻	1回生	小鹿 裕美
人間文化研究科博士後期課程	比較化学専攻	3回生	ハケ代美佳

学生相談室から

●学生相談室を、一度訪ねてみませんか。

学業や進路の不安、日常生活で困ったこと、対人関係など、さまざまな心配事について一緒に考えましょう。
話を聞いてもらうだけでも、落ち着くこともあります。
相談室はあなたの話にじっくり耳を傾けます。
そのことで解決の糸口が見つかるかもしれません。
内容に応じて適切な人や機関を紹介することもできます。

●開室日及び閉室時間

月曜日～金曜日 午前10時～午後5時
夏季休業期間中は月曜と木曜のみ閉室
8月第3週と第4週、12月27日～1月5日、
入学試験日(前期・後期)は閉室します。
上記以外で閉室する場合は、構内掲示板や相談室前にその旨を掲示することにより、お知らせします。
学生相談室の場所は大会館3階です。

TEL. 0742-20-3925

Eメール soudan@cc.nara-wu.ac.jp

●スタッフ

■相談受付

金 文子(月曜日・水曜日・金曜日)
岩井 涼子(火曜日・木曜日)

■カウンセラー

皆藤 靖子(臨床心理士) 西村 拓生(教員)
竹村 百代(臨床心理士) 片岡 靖隆(教員)
鈴木 則子(教員)

■相談員



奈良女子大学
〒630-8506 奈良市北魚屋西町
TEL0742-20-3235

発行日:2010年10月5日
発行:学生生活支援室
印刷所:共同精版印刷株式会社